

多摩大学 rapport

RAPPORT(ラポール)と仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。

学長式辞

2010年9月18日に挙行いたしました、学位授与式ならびに入学式での学長式辞を掲載いたします。



寺島 実郎

Jitsuro Terashima

多摩大学 学長

2010年9月 学位授与式

学位授与式にあたり、学長として一言申し上げます。
 今日、関西から戻ってくる新幹線の中で、卒業生の資料を見ましたが、32歳から54歳までの幅広い人たちがですね。多摩大学の大学院の特色は、実学志向の社会人大学院で、皆さんは一度社会に出てからもう一度勉強する機会を持ち、2年間志を貫き通してやり遂げたことは、大きな資産になると思います。私自身もサラリーマン生活を送ってきた人間ですが、三井物産に入って10年間中東などを動き回り、1983年から1984年にかけてワシントンのブルッキングス研究所で勉強する機会を得ました。そのとき、自分にとってのチューニングというか、世の中が見えてきて、体系的知識や世界観が必要だということ、集中的に勉強する必要性を強く感じました。皆さんもその必要性を感じられて、大学院で知識を得、スキルを磨かれて論文をまとめられたことは後で振り返ると大きな意味を持つてくると思います。
 私はかつて、世界で1つのことを成し遂げた人を追いかけて「20世紀に何を学ぶか」という本を書きましたが、どんな人物でも必ず中年の危機に襲われるんですね。仕事につき、何年かたって「おれはこれでよいのか」という

中年の危機を必ず迎えます。この危機を突破する力になるのは、貫き通す志と些細なことでも自分を支えてくれる人間関係なんだということが、色々な人をリサーチしてよくわかりました。皆さんも大学院で学んだだけでなく、教官と学生の位置関係、学生同士の関係、それに多摩大のネットワークという人間関係が必ず意味を持つてくると思います。私は最近、「私も多摩大の大学院を出ました」という人に外でよく出会います。そのたびに親近感を覚えますし、ネットワークの大切さを感じます。大学院で学ぶ実学は、いうなればプロジェクトマネジメントですが、人生もまたプロジェクトマネジメントにほかなりません。どんな人物を登場させてどういう展開にしていくなかで、自分の力で戦うしかないのです。皆さんには、2年間でチューニングしたことを現場で生かし、仲間とのネットワークの中で、大いに花開かせていただきたいと思っています。卒業されても、どこかで出会ったら呼び止めていただきたい。できたら私の関係するネットワークにも参画していただけたらうれしく思います。とりあえず志を1つ、コマを1つ前に進めたということで、ご卒業おめでとうございました。

2010年9月 大学院入学式

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。多摩大学は、初代学長が野田一夫さん、続いてグレゴリー クラークさん、私の前任者が中谷巖さんと引きついできて、ちょうど20年たちました。平成と共に、冷戦後と共に歩んできた20年間を振り返ると、多摩大学大学院は特色ある大学院で、学部からストレートに進学する大学院ではなく、社会人大学院です。一度社会に出て、現場に立ちもう一度志を持って自分に再投資しようとする人たちがやってこるところです。この秋も、14人の人たちが2年間仕事と学業と家庭との両立を何とかやり遂げて卒業していきました。新入生の皆さんが、この2010年秋、どんな時代に大学院の門を叩いたのか、2年経って仕事に戻られたとき強烈に思い出すことなのでしょう。この時代、「アジアダイナミズム」-アジアの噴き上げるようなエネルギーと嫌でも向き合わずにいられません。先週の土曜日、9.11から9年ということ、私もメディアからいっせいのコメントを求められました。この9年間でどう変わったか。日本の貿易に占めるアメリカの比重が半分に、24~25%が12%に、一方でアジアとの比重が5割となり、中国との比重が2割を越した。中国・アジアと色々な意味で向き合わなければならなくなっている。このあいだ、大変面白いレポートが出てきました。アジア中間層とって、年間可処分所得が5千ドルから3万5千ドルまでの方が2000年には2億人だったのが、昨年は6億9千万人、10年後には20億人になる。これに富裕層という人たちが2億3千万人いて、つまり、22億3千万人というEUやアメリカをしのぐ購買力になるだろうということです。ちなみに、今年の1月から6月の統計では、日本に来た人では、中国からの人が前年度比47%アップ、韓国からの人が72%アップになっ

ています。銀座に行こうが温泉に行こうが、中国と韓国人ばかりで、彼らの購買力が日本の市場を支えている構造転換が起こっています。サービス業であれ製造業であれ、ビジネスの現場にいる人たちは、アジアのダイナミズムと否応なく向き合わざるをえない。

この大学院では、専門性を身に付けると同時にスキルも身に付けていただきたいが、私は是非、地政学的知、世界のダイナミズムがどこへ向かっているのかという世界観、時代を見る目を磨き上げて、リーダーとしての資質を磨いていただきたいと思っています。経営はプロジェクトだと、自分に言い聞かせてきています。自分の人生をマネジメントする。登場させる人物、配役、自分が身に付ける力、ネットワークなど、あらゆることを組み立てて仕事を成功させていくプロジェクトです。仕事を成功させるのは、人間の心を動かす力であって、人間の心を動かす力を身に付けなければならない。鈴木大拙の言葉に、「アーティスト・オブ・ライフ」というのがありますが、人生は芸術家であり、自分のキャンパスに自分で絵を描いて行く気迫が問われるということですね。

それとあとは多摩大学のネットワークですね。私自身、九段のサテライトで「インターゼミ」、社会工学研究会をやっています。大学院からも忙しなかから出てくれる人もいます。自分より若い学部生の面倒を見てくれながら、何かつかんで出て行っている。皆さんも忙しいので参加できないかもしれませんが、多摩大のフィールドを大いにきわめて、色々な人たちとネットワークを作り、自分のアセットにして、したたかに、かつ、たくましく生きていくための充電期間としてこの大学院生活を活用してもらいたいということを申し上げて、入学のお祝いの言葉にしたいと思っています。

2010年9月入学者アンケート結果(抜粋)

MBA取得の必要性を感じた背景の具体的エピソード

- ・30歳を半ばすぎで、「はっ」と気づいたら、自分の価値観や考え方が固まりつつあるのに気づき、上司や仲間の改善案等に批判してばかりの自分に気づいた。これは、経験からしか、何事をも考えていないことをさとり、経験の体系化と、知識と実践の整理が必要と思い、本大学院の門をたたきました。
- ・論文を書く技術を身につけたかった。

他大学と比較した多摩大学大学院の強み

- ・カリキュラム
- ・ビジネスで直面する課題解決について理論と実践の両面で学ぶことができる。
- ・企業経験の教授も多く、理論だけでなく実践についても体系的に学ぶことができる。

入試制度(特にAO入試)

- ・JR品川駅から5~6分という立地条件は、仕事を持つ者にとっては大変ありがたいと思います。

他大学と比較した多摩大学大学院の弱み

- ・あまりPRしていない。もっとメディア(アカデミックなメディア)で表現すべき。(経団連、日経連、同友会、商工会)
- ・大学の認知が弱い。

大学院進学にあたり、不安だった点

- ・業務の関係上繁忙期に通学して両立出来るかどうか不安な面はあったがスキル向上の意志と周りのサポートも得られ入学を決めました。
- ・子供が2人(大学3年、大学1年)であり、学費負担と妻への理解。遠距離通学、大学院へ行く事への会社上司、同僚の理解、勉強の両立。

第8回公開講座

12月14日(火) 19:30～ 品川キャンパス

テーマ「経営戦略とリアルオプション」

中岡 英隆 客員教授

その他入試制度説明など

第9回公開講座

12月20日(月) 19:30～ 品川キャンパス

テーマ「人材・組織改革」

浜田 正幸 准教授

その他入試制度説明など

開催場所は多摩大学大学院 品川キャンパス

お申し込みは多摩大学大学院ホームページ <http://tgs.tama.ac.jp/>

または

多摩大学大学院

検索

2010 秋学期 履修人数が多い科目 BEST5

ビジネスモデルデザイン	紺野 登 教授
インテグレーションマネジメント概論	橋本 忠夫 教授
グローバルプロジェクトマネジメント	高橋 良之 客員教授
人間力向上と日本文化	辻 毅 客員教授
組織行動とリーダーシップ	本間 浩輔 客員教授

【ビジネスモデルデザイン】

「ビジネスモデル」は、かつて電子商業のカネの流れを示す表層的な図式として紹介されたために、大きく広がることはなかった。しかし、いま企業が供給者側の論理から脱して、需要理論のビジネス構築を考えるべき時代となり、再び世界的に注目を集めている。その本質は顧客価値提供のエコシステムである。本稿では、集中ワークショップ形式によって、新たなビジネスモデルの意味合い、評価・構築の手法を学ぶことを狙いとする。

【インテグレーションマネジメント概論】

経営は分析だけではなく総合し行動しなければ意味がないためマネジメントは本質的にトータルを志向する。一方、グローバル化・IT化・価値観の多様化等による経営環境の超複雑化は全体最適志向を困難にしている。トップマネジメント(の使命・武器・アウトプット・結果責任)とトータル経営との関係を事例中心に学び、その考察を通じてインテグレーションマネジメントが今後求められる経営スタイルであることの明確化を図る。

【グローバルプロジェクトマネジメント】

ものづくり、プラント、システム等のビジネスは21世紀に入り国際競争の面で益々厳しい状況におかれている。

その一方、経験豊富な技術者の高齢化、団塊世代の定年による大量の人材流出、技術者の不足等の3つの大きな変革が起りつつある。それらの厳しい条件下で国際競争に勝ち抜いていくために各企業は限られた人材を活用しながら①新基礎技術開発(プロセス技術、システム技術)、②新製品、新商品、新素材開発、③システムビジネス④ものづくりの高生産性、⑤海外プロジェクト(プラント)の拡大等に挑戦していかなくてはならない。

これらのプロジェクトを効果的に遂行・リードしていくには多くのプロジェクトリーダーが必要となるが現状は各企業とも不足がちであり、また育成に苦慮しているのが現状である。本講座ではプロジェクトリーダーの必要性と具備すべき技術、育成の仕組みについて、実践経験を混じえて講義を行う。

【人間力向上と日本文化】

企業経営において経営理念が不可欠であることはいうまでもありませんが、その経営理念は経営者自身の人生観、社会観、世界観、人間観に由来します。経営力ともいべきこの人間力をいかに涵養し向上するかについて、日本の伝統・文化・宗教と関連させつつ学びます。単に知識を習得するだけでなく、日常生活における行動への反映を期待した授業ですので、自身のこれからの処し方に活用して下さい。

【組織行動とリーダーシップ】

ビジネスリーダーを対象として、参加者の経験と理論を統合して学びを深めることにより、「優れたリーダーシップ」を発揮できるようになることを目的とします。講義においては、キャリアやモチベーションなど、組織行動の理論をヒントにしなが、ケース・スタディやグループ討議を通じて、参加者が自らの腹に落して、実践もしくは応用可能な知識やスキルを身につけることを目指します。

アドミッションズオフィスから

多摩大学大学院では2011年4月入学生を募集しております。

入試制度や出願資格等に関するご質問などございましたら、下記大学院事務室へご連絡ください。

【一般入試】

募集定員 10名
出願期間 2011年1月20日～29日
試験内容 一次選考：書類審査
二次選考：筆記試験、面接
試験日 2月5日(二次選考日)

【AO入試】

募集定員 30名
エントリー期間 2011年3月5日まで
試験内容 最低2回の面接にて合否を判定
試験日 個別対応
* AO入試は筆記試験を実施しません。



早期エントリー特典!

AO入試におきまして2010年12月中にエントリー(末日消印有効)された方で、2011年4月にご入学していただいた方に入学後の書籍等の購入支援といたしまして、3万円分の図書カードを進呈いたします。詳しくは右記大学院事務室へお問い合わせください。

多摩大学大学院事務室
電話 03-5769-4170
メール tgs@tama.ac.jp